親しく正しく和かに
当山先々代三吉日照上人の提唱による当山スローガンです
揮毫＝大本山本興寺御開士大平日晋上人

季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）本覺山妙壽寺が発行する寺報です。
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに広くお読みいただければ幸いです。

寺楽寿 てらす

No.25

平成 28 年 7 月 1 日発行

本覺山　妙壽寺〈法華宗（本門流）〉
〒157-0061　東京都世田谷区北烏山 5-15-1
電話 03-3308-1251　FAX.03-3308-7427
ホームページ　http://myojyuji.or.jp

無縁社会と寺縁（じえん）その22

4月14日、熊本県で地震が発生し、16日未明には本震が襲い千回を超える（4月28日発表）余震が続いております。多くの方々が亡くなり、避難所での生活、あるいは車中での宿泊を余儀なくされております。報道で、14日の前震で持ちこたえた家屋が16日の本震で全壊してしまう現象を目の当たりにいたしました。

片や、春から夏に移ろう境内。藤の花が終わりとなり、風景が一変して梅雨の季節となります。

朝山門を開くとき、石畳に小さな蟲が足元にあり、夜、明かりには蟻や蟲が集まり、守宮（ヤモリ）がこれを目当てにやって来ます。

四季の移ろいと自然の営み、昼夜の世界。人の窺い知ることのないところのミクロの世界。

他方、マクロでは地球規模の地殻変動による大地震。人間の生涯を遥かに越える百年、千年、万年単位で起こる現象。人間はこの間にあって人としての人生を全うする中で、如何にその価値を高めていくか。それは、人々と社会のために貢献していけるかに尽きると思います。

この度の熊本地震、そして東日本大震災等について考える時、祈ること、そして自ら出来ることを行っていきたいと思います。

鴇　鵠

「蓮華」伊東深水 画　妙壽寺蔵
「於 池上月島荘　昭和十五年八月三日 謄写」と記されている

当山猿江別院 上棟式

3月7日、雨上がりの中、当山猿江別院の上棟式が当山総代役員、猿江稲荷崇敬会、そして一宇建立寄進の稲生恵子夫人等関係者が出席して厳かに奉修され、無事円成の祈願がなされました。

4月25・26日　北陸団参旅行

法華宗門祖日隆聖人ご生誕の誕生寺（射水市）を参拝し、金沢法華宗寺院の巡拝と、金沢市内名勝地を巡る旅行会が行われ、28 名が参加しました。

25日 東京駅発（7:52）➡ 新高岡駅（10:47）➡ 国宝瑞龍寺見学 ➡ 法華宗再興唱導師日隆聖人生誕の地「誕生寺」＝上写真（参拝・昼食）➡ 金沢・忍者寺（妙立寺）➡法華宗承証寺・本因寺（参拝）➡ 山代温泉・ゆのくに天祥（泊）

26日 ゆのくに天祥 9:00 発 ➡ 九谷満月 ➡ 金沢・長町武家屋敷跡 ➡ 金沢城公園・兼六園 ➡ 金沢料理「兼見御亭」（昼食）➡ ひがし茶屋街 ➡ 近江町市場 ➡ 自由散策 ➡ 金沢駅発（17:52）➡ 東京駅着（20:24）

寺日記 てらにっき

●3月2日　神奈川仏教青年会40周年記念祝賀会
会場：横浜ベイホテル東急

●3月9日　第29回法華宗教学研究発表大会
会場：キャンパスプラザ京都

●3月10日　東京大空襲慰霊法要
6名の東京教区青年会僧侶が人形町宗務院より行脚、両国の東京都慰霊堂に到着。当住上人、当山職員諸師、正隆会メンバー信徒等10名が待ち受けて、霊前にて唱題回向。その後、宗務院に戻り6階仏殿ご宝前にて回向供養が勤められました。（写真❶）

●3月12日　菅原日桑猊下御本葬
京都大本山本能寺第百三十九世・大阪吹田市法華寺中興第三世菅原日桑猊下の本葬儀が同本山に於いて、法華宗管長小西日遶猊下御導師にて厳粛に執り行われました。

●3月14日～21日　勝田深氷遺作展
長崎平戸の「平戸オランダ商館」にて伊東深水画伯子息の故勝田深氷氏の遺作展（絶筆「唐獅子」とフラメンコ）が開催され、当住久美夫人が当地に赴き鑑賞いたしました。

●3月15日　東日本大震災犠牲者慰霊法要並復興祈願法要
岩手県上閉伊郡大槌町の旧役場庁舎前において、東日本大震災犠牲者慰霊法要並復興祈願法要が宗務総長二瓶海照台下導師の下、当住上人、梅原上人、大坪師が参列し、30名にて奉修されました。（写真❷）

●3月20日　春季彼岸会中日法要、併せて正隆廟写経納経法要　参詣500名余

●3月24日　全日本仏教会懇話会・朝食会
会場：東京プリンスホテル

●4月2日　烏山花まつり（主催・烏山仏教会）
常栄寺より西蓮寺まで30余名の稚児、父兄合わせて100余名の稚児行列が行われました。

●4月3日　徳島妙啓寺入山式
昨年11月24日ご遷化の平島啓正上人（第二世白輝院日啓上人）の後継として平島啓生上人（啓正上人ご長男）入山式法要が組寺輪番大法要に併せて奉修されました。（写真❸）

●4月6日　法華宗青年伝道隊　第九期練成懇親会
会場：ホテル本能寺会館京都

●4月11日　法華宗千鳥ヶ淵戦没者慰霊法要

●4月16日　淡交会関東第一地区大会
会場：明治神宮会館、明治記念館

●4月23・24日　第2回当山つつじ観賞会
両日、鍋島客殿二階を開放し、ご来山の方々にご観賞いただきました。

●5月1日　田中義晴氏（当山世話人役員）逝去
当山世話人役員の田中義晴氏（義楽院法常日晴信士 82歳）が逝去されました。当山において8日通夜、9日葬送に当住上人御導師のもと奉修されました。ご冥福をお祈りいたします。

●5月11日～31日　絵仏師・中村美希女史「ゑものがたり参景」開催
当山猿江別院に仏画屏風をご制作いただく絵仏師・中村美希女史の三人展「ゑものがたり参景」が高島屋日本橋店（5／11～5／17）、同新宿店（5／25～5／31）において開催されました。

●5月28日　三遊亭とむ結婚披露宴
会場：新宿・ヒルトン東京

①

②

③

当住上人の 宗務院 DIARY

3/2 ▶興隆学林専門学校卒業式・学務協　3/25 ▶布教部会議・内局会議
3/28 ▶布教師会・声明研修会会議　3/31 ▶法華学園理事会
5/17-19 ▶法華宗宗会　5/26-27 ▶全国宗務所長会

七五三 募集

本年も11月3日のお会式法要にあたり「七五三」の祈願法要が行われます。
檀信徒の皆様には、お子様、お孫様、ご親類のお子様等にお話しいただき、ご祈願とご先祖様にご報告いただきますようご案内いたします。（詳細は、別紙参照）

本堂左位牌壇整理についてのお知らせ

この度当山では、本堂左位牌壇の調査整理を行うことに致しました。昭和57年に旧本堂から新本堂への遷座以来34年が経過し、今後の継承者と祀り方について検討致します。

これにつきまして、ご要望等がありましたら当山受付までご一報いただければと存じます。

護法会の御加入について

日頃は護法会会費の納入につきまして、ご理解ご協力いただき有難くお礼申し上げます。近年、名簿等の整理を進め未加入、未納の方々にもご理解いただき、護法会にご協力いただいております。今後は継承時（名義変更時）に改めてご説明をし、ご加入の促進に努めて参りますので、よろしくお願い申し上げます。

妙壽寺 2016 夏秋スケジュール

7月16日（土）　孟蘭盆会施餓鬼法要
9月22日（木祝）　秋季彼岸会　中日法要
11月3日（木祝）　御報恩会式（御会式）

正隆会【SHORYU-kai】午後2時開催

月例講ご案内

当山では、毎月第2土曜日午後2時より月例講正隆会を開催しております。仏教や法華経についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人どなたでも参加できます。例会では、毎回1時半より正隆廟墓前法要を奉修しております。

6月11日（土）	写経会
7月9日（土）	講師勉強会（興隆学林教授 平島盛龍先生）
8月	休講
9月10日（土）	勉強会「法華経の略要品」拝読 -2-
10月8日（土）	課外活動・秋のウォーク（詳細未定）
11月12日（土）	勉強会「法華経の略要品」拝読 -3-
12月10日（土）	三千遍唱題行 勉強会「法華経の略要品」拝読 -4-

KUGENUMA & SAN FRANCISCO 鵠沼・桑港から

晴明庵▶ 4月22日、同庵にお尽くしいただいたお婆様方を供養する報恩法要がお勤めされ、15名により唱題回向いたしました。また、僧階昇叙のご報告がありました。

日蓮教会▶ 2月21日、日蓮教会理事会開催。当住上人出席。

4月10日、快晴のなかメンバー40名が参集して、春季彼岸会・花まつり法要が園田顕敦師御導師にて奉修されました。また、前月9日には、同教会メンバー故フランクよねぞう池永氏葬儀追悼会がアシュレー・マクラミン葬儀場にて、同師御導師にて修行されました。

第14回

本堂落慶30周年記念インタビュー

早苗靖夫氏（十二代早苗平兵衛　早苗質店主人・当山檀家総代・本堂再建建設委員会計）　後編

聞き手　三吉廣明上人

（平成28年1月7日　於・杉並区梅里　早苗家）

早苗靖夫氏と三吉廣明住職

深川から烏山へ移転と証文

住職　関東大震災により深川猿江にあった妙壽寺が全焼し、大正12年に烏山に引っ越しました。その間の昭和4年までに移転落成法要をいたしましたが、早苗家の現在あるお墓は移転してからのお墓ですか。

早苗　今のお墓はそうですね。

住職　新しくお墓をつくられたということですが、よくお話に出ますのは、当時のご総代の記録はありませんが、妙壽寺の建物を再建するときの棟札に早苗平兵衛（十一代目）というお名前がございますから、そのとき総代を務めていただいていましたね。

　加藤さん、早苗さんからよく伺っておりますのは、当時、日照上人は帝都復興の一環としてお寺を移転したのですが、ご総代からもその資金をお借りしたわけですね。そのお金をお借りしたのが、最後はご寄附のような形でお寺が頂戴したというお話を聞いておりますが。その辺は、早苗さんは聞いておられますか。

早苗　証文といいますか、今も残っております。加藤さんも「うちにもありますよ」とおっしゃっていました。加藤家に今もあるかどうかわかりませんけれども、私どもでは残っています。日照上人のご署名があって…。ですから全額返ってこなかったということですね。かえってそのほうが、今は残っている証文のほうが貴重なことで。（笑）

住職　それは大変な史料だと思いますよ。史料と言っていいかどうかわかりませんが。

早苗　千円、二千円とご総代お檀家が一丸となって日照上人に差し出されたのだと思います。当時のお金とするとどうなのですか。（編集注＝当時は一万円あれば家を買えたと言われている）

住職　それは多分、調べるとわかると思います。私がこのお正月で一番感心したのは、BS放送「明治神宮　不思議の森～100年の大実験～」という番組があり、100年前に3人の造園学者の先生方が、150年かけて全国の方に献木していただいて明治神宮を造るとと。そのときに、いろいろな種類を入れて、最後は森を造るという計画で、針葉樹・常緑樹・広葉樹の3種類を高さも違えて植栽することによって針葉樹がだんだん少なくなってこんもりとしていくという大変壮大な計画を立てたということでした。非常に感心しました。今、明治神宮は昆虫からキノコまで、実に貴重な東京の自然が残っている場所であるということでした。

　日照上人のことを考えると、そういうふうに借財をしてあれだけの広い5,000坪の土地を確保したわけですが、片や本所吾妻橋の清雄寺（せいおうじ）というお寺の燃えなかった本堂をいただいて仮本堂にして、雨露を凌いで我慢され、お金を借りてずっとやってきて、本堂再建のときにはそれこそ田邊さんからのお話で、「わらじを履いても本堂再建のお金をつくる」という意気込みもあったようです。

　やはり昔の方は、特に明治生まれの方は中長期に気宇壮大だということを非常に思います。内田先生が今の鍋島客殿の保存については、目先のことではなく、あのような木造の建物は50年で半解体、100年で全解体と、50年100年のスパンで考えるということですから、日照上人のその辺の懐の深さや、それに応えていただいた当時のご総代方の気持ちを考えると、やはりお寺とお檀家というのは昨日今日の関係ではないということが、今のお話を伺っても本当によくわかります。

日照上人とお檀家との親交

早苗　日照上人はお人柄といいましょうか、ご人望があったのですね。ですから、ついていこう、あの方のあとをついていけば間違いない、という気持ちがあったのでしょうね。日照上人との個々のお付き合いやお話し合いというのではなく、お檀家同士でも随分、親交があったようですね。

住職　早苗さん、加藤さんたちのご先代にお力添えをいただきながら、一つは戦時中の国神不敬事件であり、当時の官憲との間のいろいろなことがあった中で、皆さんでお寺を守っていただきました。昭和30年に日照上人が亡くなり、その後、顕道上人が跡をとるわけですけれども、それも結局15年で亡くなり、その後また7年ですか、妙恵上人が住職を務めて、早苗ご総代には妙恵上人の時代に若い方たちとご一緒に旅行されたり、いろいろとお心遣いをいただきました。

　三代の悲願ということで、妙恵上人が亡くなった直後、私が24歳で住職を引き継いだ後、本堂再建という気運が…。今思い返してみても、あのときにお寺の歴史や日照上人のことを本当によくわかっておられ、皆さんのお母さんのシンボルのような加藤やくさんに聞きましょう、というような感じがありましたね。

　加藤さんは神田須田町の綿布問屋加藤株式会社のおかみさん社長で、後に会長をしていましたが、もともとは分家から本家に嫁がれたということで、私なども随分たくさんの思い出があります。

　歌舞伎に連れていっていただいた時でしたが、そのときに、今もありますが、水羊羹の金物の容器にビニールの蓋がついており、歌舞伎座でお弁当を食べたときに、「これを召し上がってください」と、そのカップの中にフルーツを入れていただいたのです。それは加藤さんいわく、「やはり二度使いをしなくてはいけないと思うんですよ、お上人」と。（捨てるには）もったいないというか……。

早苗　昔の方はね。我々の畳紙や紐は正にそれです。約（つま）しい。

住職　戦争や大変な時期を越えてきた方は違うなと思いました。

　これも今で言うとビックリな話ですけれども、先の座談会のときにすごいと思いましたのは、私自身はもちろん昭和天皇のご大葬しか知らないわけですけれども、頌栄女学校のときにご大葬で先生に連れられて青山まで行ったという話を聞いて、私は大正天皇のご大葬かと思ったら、よくよく聞いてみると明治天皇のご大葬（大正元年9月、青山練兵場で執行）でした。これにはさすがに驚きました。大変な時代を経験されていますね。

早苗　その辺のことになると、私などよりももう少し5つ、6つ上の方はよくご存じでしょうね。私は、関東大震災時はもちろんいませんが、太平洋戦争からこちらのことは鮮明に憶えています。

住職　加藤やくさんの関連で言いますと、お母様がやはりご婦人会でいらっしゃいましたね。

早苗　よくご一緒して…。あとは太田婦くさん、もうお一方の加藤琹以子さん、電気設備会社の武田ヤスさんや、やきわ木の森カネさんなど。

住職　それは森さんのお母さんですね。今のご当主のおばあさん、カネ（包）さんですね。

早苗　旅行なんかもよくご一緒していました。

住職　日照上人は昭和22年～26年まで京都の妙蓮寺の本山貫首をされたので、妙壽寺の婦人会は妙蓮寺の婦人会を模した部分があるという話も聞いています。

早苗　それは私も聞いていますね。母は2回ぐらい妙蓮寺をお訪ねしているのではないでしょうか。母達が初めて妙蓮寺に泊めて頂いた時、皆、朝寝坊して朝のお勤めがあんなに早いと思わなかったと慌てた話を聞きました。後に妙壽寺にも婦人会が発足して、折々のお弁当が出るようなときも、お檀家のご婦人会の方々が煮物をしてそれを塗り物のお弁当箱に詰めてお出ししていたという。夜が明けて、お風呂を使わせていただくのが楽しみだったということも加藤さんによく伺っていました。妙壽寺にあったのは、小判なり（楕円形）の随分大きなお風呂桶でしたね。

　お上人の叔母様に当たる恵子さん（日照上人の五女）も若くてお元気でいらっしゃって、よくそういうお話が出ていましたね。

住職　昭和26年に半年間米国に行って帰られてから、帰朝の園遊会を催したという記録（『追想　日照上人』口絵）が残っていますが。

早苗　お写真もありますね。伊東深水先生などご一緒で、父も元気でした。模擬店が出たりしていました。

念願の本堂再建

住職　そういった日照上人の時代があって、先ほど申し上げた本堂再建ということになりますが、再建から早や33年たちました。本堂再建で檀信徒の方々から多額のご浄財もいただき、また盛高家のご寄進等もありましたが、本堂再建の大きな思い出はございますか。

早苗　内田先生のお力もあるし、田邊さん、大関先生のお力もありましたが、その半ばで妙恵上人が倒れられましたね。そのとき私の母もやはり同じ脳梗塞で倒れて、近所にいらした継（つぐ）内科継医院）先生にかかりましたが、その先生を妙恵上人にもご紹介しました。あのころは大変な時期でしたね。記録に残っているかもしれませんけれども、本堂再建の役員会をあの角のお部屋で何遍したかわからないですね。忘れてはいけません。現在の佐々木明乗上人、和子さんご夫妻は陰でお力添えをいただきました。

住職　今、考えてもあのときは顧問ということで元ご総代の小松の宇兵衛おじ様や加藤真次郎さん、宮岡さんもおいでになりましたし、妙壽寺の日照上人の時代の方たちにおいでいただいて発足できました。それから何年かして皆さんがだんだんお亡くなりになりました。

　私自身、今思っているのは、本堂ができたときにそれを痛感いたしましたが、自分が二十代で、当時のご総代やお世話人の方たちの年齢を考えると、皆さん、日照上人が亡くなったぐらいの年齢になっているのです。

　逆転現象といいますか、その方たちが二十代で自分の今の年だったときに、日照上人の晩年の、円熟した日照上人のことを存じいただいていて、その孫が本堂再建時の住職ということは、何と申しましょうか、ある意味でうまく襷がけのように時代がギリギリ間に合ったということですね。

早苗　お上人は大学が後回しになってご修行に行かれましたときも随分皆さんのいろいろなご意見があって、何しろ跡を継いでいただかなくては困るから、修行をされて帰ってみえてから大学に行かれてもいいのではないかというお話も出て、事実、そういうふうになったわけでしょう？

住職　そうですね。

早苗　あのときも大変でしたね。どうなってしまうのだろうと…。そのときはもう私の父もいませんでしたからね。宮岡さん、山木さん、小林さんのご総代の時代です。

住職　いわゆるお寺という器と同時に住職、寺族のこともご心配いただいて本当にありがたいことだったと思っています。これからは、目前に妙壽寺の深川時代の猿江の別院も、規模は小さいものではありますけれども、また一つお堂が建つということもありますが、今、急激に世の中が変わり、加藤さんがよく「余りに嫌なことが起き、そういうことを耳にするのはつらい」というお話をされていましたが、あの当時よりも、もっと世の中は大変なことになっていると思います。

早苗　全ての変化が速くなっていますね。

妙壽寺総代を務めて

住職　これからのことも含めて、早苗さんは今、どのように思っておられますか。

早苗　お寺も変わっていかないといけない時代がやって来ると思いますが、妙壽寺らしい良い伝統は残したいですね。その当時の宮岡さんは、今はご子息の時代になり、小林美之助さん、山木貞次郎さん…、丹野政雄さんは後ですね。松永さんはうちの父が推薦して、あの方に総代になっていただいたらどうかということを随分申し上げたようでしたね。いい方で、私も存じ上げていますが、現在の松永総代のご両親です。

　あのころは山木さん、小林さん、宮岡さん、私と4人、お上人は沼津の浦辺泰恭上人と福島の矢吹泰英上人が交代でお見えになって、その間、4人でローテーションを組んで、毎週日曜日には誰かしらが寺に行って受付をやっていました。最初に今の山木さんのお父様が突然、うちにお見えになりました。私が一人でいたときで突然のことでした。「総代になってほしい」とおっしゃられたのです。私は驚いて、ほかの方は大店でいらっしゃるし、年齢も私よりは上でいらっしゃるから、「とんでもないです」「でも…」、という話をして。

　変な話ですけれども、冷蔵庫にグレープフルーツが一つあったのでそれを二つに割って、最初は二人で黙って、ただただ黙々とそれをすくって食べたことをよく覚えています。そういう思い出がありますよ。後に山木総代が亡くなったときは、あのときは申しわけなかったなと思って、まだまだお写経を書き始めたばかりでしたが、下手でも何でも書いて、ご葬儀のときに持っていった憶えがあります。

　その次は浦辺上人（日照上人徒弟）がいらしたのです。そのときは一人だったかどうかわからないですが、やはり「総代になってください」とおっしゃられたのです。私はまだそういう器でもないし、とお断りして、帰り際に「私が来れば受けて頂けると思ったんだけどな」とおっしゃったので、「申しわけありません」と言って玄関でお送りしましたが、「たいがい、こういう話はお坊さんが来れば帰り際には受けてもらえると思ったんだけどな」とおっしゃったのが頭に残っていますね。

　それから少したった後に、何度も話に出ている加藤やくさんからお電話があって、その口調が、「早苗さん、もうそろそろいいんじゃないですか」と、それも印象に残っていますね。それが止めでしたね。

住職　考えると、本当にいろいろなことがありましたね。私もこの3年、5年は次の代を考えていくわけですが、そういう日照上人、そして顕道上人と妙恵上人の間をつないでこられた思いを継承していきたいと思っております。

早苗　妙恵上人は妙恵上人で、私の父が亡くなったときも本当に涙乍らに読経して下さいました。

住職　お父上を頼りにしていたと思いますね。

早苗　どうですかね。お経を上げて下さった。

住職　これからも、今までお寄せいただいたお気持ちに少しでも応えるように、できる限りしていきたいと思っています。

早苗　こちらこそ頼りにしております。

住職　よろしくお願い致します。400年近くになる早苗家と妙壽寺の関係を短い時間でしたがお話をさせていただきました。

　お寺というのは住職が一人で頑張っても、もちろんだめなわけですし、お檀家、それもお代表のご総代方がお寺のことに心を砕いていただいて何とか運営していくことが出来るものだと思います。これからの時代は、もっと世の中に開かれたお寺であり、仏教であったりしなければいけないのではないかとも思います。そういう点で、これからもますますお力添えいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

　本日は本当にありがとうございました。

早苗　ありがとうございました。

（了）

御本尊

江戸後期
弘化４年（1847）
京都妙蓮寺第四十八世
妙壽寺第十五世　日文上人

江戸後期
弘化３年（1846）
妙壽寺第十五世　日文上人

江戸時代中期
安永９年（1780）
日行上人

江戸時代前期
延宝２年（1674）
妙壽寺御開山
日崇上人

（早苗氏所有）